



Q.1 盲導犬の基礎知識

Q.2 盲導犬の仕事は

Q.3 盲導犬の育ち方

Q.4 盲導犬訓練士のこと

Q.5 ユーザーと盲導犬のくらし

Q.6 盲導犬の歴史と今

Q.7 盲導犬のいろんな事情

Q.8 協力のしかた

平成17年度 主な活動

Q.1 盲導犬の基礎知識

質問 001 どんな犬が盲導犬になるの？



- A** 犬の種類は、現在はラブラドル・レトリバーがいちばん多くなっています。他に、ゴールデン・レトリバー、シェパードなどもあります。それらの犬たちの中でも、性格がおだやかで、人間と遊ぶのが大好きな犬が盲導犬になります。



質問 002 小型の盲導犬は見かけませんが、なぜ？



- A** ご主人（盲導犬ユーザー）を安全に誘導するには、盲導犬が大きすぎても小さくても良くありません。日本人の平均的な体格には、ラブラドル・レトリバーくらいのが大きさがぴったり。



質問 003 盲導犬の適性ってどんなこと？



- A** 人間といっしょで、まず健康第一。そして性格がおだやかで、人間と遊ぶ（仕事する）のが大好きな犬が向いています。そういう面でも、ラブラドル・レトリバーが選ばれています。けれど、どの犬でもなれるものではありません。訓練する中で細かく盲導犬に向いているかどうかをたしかめ、訓練犬のなかで盲導犬になれるのは、30%~40%ほどです。

質問 004 盲導犬になれなかった子犬はどうするの？



- A** 盲導犬に向かないと決まった犬は、その犬にふさわしい暮らし方を考えます。盲導犬のことをよく知ってもらうためのデモンストレーション犬や、介助犬やセラピードッグに向いていれば、そちらへ。どの仕事にもつかなかった犬は、ボランティアの家庭でペットとして暮らします。





A

1頭いくらと簡単に計算はできません。盲導犬を育てる費用には、訓練、食餌、健康管理、訓練施設の水道光熱費、繁殖犬の購入、職員として働く人たちの人件費などなどさまざまな経費が含まれます。またこの冊子のように盲導犬のことを広く知ってもらうための費用なども必要になります。そのため多額の費用がかかります。



Q.2 盲導犬の仕事は

質問 006 盲導犬は、どうやって道案内するの？



- A** 盲導犬は道案内をしているのではありません。目の見えない人の指示に従って道路の段差や曲がり角、交差点、階段で止まったり、電信柱や看板など、歩くときにぶつかりそうなものをじょうずにさけて、視覚障害者が安全に歩けるように手助けします。危険な場所や、障害物があると、ご主人をかばうように誘導したり、止まることでご主人に注意するように伝えます。



質問 007 信号や踏切がわかるの？



- A** 信号や踏切がある場合は止まります。しかし、いつ渡り出すかは、盲導犬が信号の色を見て判断するのではありません。ご主人が人や車の音などで判断し、盲導犬に歩きだすように指示を出します。でも、盲導犬が“まだ危険だよ”と感じたときには、命令に従わず（賢い不服従）、完全に安全になるまで待つこともあります。

質問 008 どんな町に行っても、盲導犬は道案内できるの？



- A** 道の状況は、土地によって変わります。段差や曲がり角、交差点などをご主人に知らせるのは同じですが、その町でご主人がちゃんと盲導犬に指示を出さないといけません。そこで、各盲導犬訓練施設では、ご主人と盲導犬が暮らす町で、「現地指導（フォローアップ）」を必ずおこないます。ご主人が盲導犬といっしょに歩くことに慣れれば、旅行などにも行けるようになります。

質問
009

盲導犬は、ぜんぜん吠えないの？



- A** 盲導犬の大切な適性のひとつが、あまり吠えたり気を散らさないこと。町では散歩中の犬や猫ともすれ違えますから、いちいち気が散ったり、吠えていては安全に歩くことができません。しかし、ご主人と家で遊んでいるときや、おどろいたときなどワンと一声吠える犬もいます。



質問
010

店の入り口や、駅の切符売り場はわかるの？



- A** 目的とするお店を盲導犬がわかっているのではなく、ご主人が盲導犬に指示して探します。ご主人が店までの行き方を頭の中に入れておき、店の入口近くまで行ってから、店のドアを探るように盲導犬に指示するとドアの前などでは盲導犬が止まって、“ドアですよ”と教えます。駅の切符売り場も同じです。



Q.3 盲導犬の育ち方

疑問 011 盲導犬はどうやって育てるの？



A 盲導犬になるために生まれてきた子犬たちは、まず生後2ヶ月頃からパピーウォーカーという飼育ボランティアの家にあずけられ、約10ヶ月間、可愛がって育てられます。これは、人間の愛情にふれ、人間大好きになっただけのため。約1才で盲導犬訓練施設に戻り勉強をはじめます。その後も訓練士の愛情を注がれ、卒業すればご主人の愛を一身に受けて生活します。



疑問 012 どんな訓練をするの？



A 盲導犬訓練施設に入ると、まず適性や健康をチェックされ、それから6～12ヶ月の訓練を受けます。訓練は犬の遊びをとおして、仕事を楽しむように教えます。Sit（座れ）、Wait（待て）、Go（進め）などの基礎訓練、ハーネスをつけて道路を歩く、交差点や踏切を渡る、段差で止まるなど、目の見えない人の実生活に近い状況の中で訓練します。最後に目の見えない人と4週間ほど合宿して、共同の訓練をおこないます。その後、ご主人の暮らす町まで歩行指導員が行ってフォローアップ（現地指導）を実施して、いよいよ盲導犬として活躍することになります。



疑問 013 どこで盲導犬を育てているの？



A 盲導犬は法律（道路交通法、身体障害者補助犬法）に規定される犬のため、国家公安委員会が指定する盲導犬訓練施設（全国盲導犬施設連合会の加盟施設一覧をご参照ください）のみが訓練・認定できることになっています。





A

盲導犬は安全に関わる大切な仕事を覚えるために、気が散らないように勉強する必要があります。ですから、訓練のようすをじっと見つめたり、犬に声をかけたり、触れないようにお願いしています。どうかご協力をお願いします。



A

盲導犬は、ただお行儀が良いだけではなれません。体の大きさや力、性格、健康状態など、たくさんの適性をチェックされ、きびしい条件をクリアしなければなりません。なぜなら盲導犬は目の見えない人の命を預かる犬だからです。そしてできる限り効率よくすぐれた盲導犬を育てるために、盲導犬に適した血統を持つ犬を繁殖して未来の盲導犬を生みだしています。ですから、ペットの犬を訓練しても、なかなか盲導犬にはなれません。



Q. 4 盲導犬訓練士のこと

質問 016 訓練のようすは見学できますか？



A 国家公安委員会の指定を受けた盲導犬訓練施設では、「見学会」や「各種のセミナー」なども実施しています。盲導犬の育て方を、みなさんに知ってもらうことも大切なことです。見学をご希望の方は、各訓練施設（全国盲導犬施設連合会の加盟施設一覧をご参照ください）までお問い合わせください。

訓練士の日（ある施設の例）

8:30	ミーティング
8:40	犬舎管理 ●給餌、排泄、掃除など
9:00	午前訓練
12:00	昼食
13:00	犬たちの排泄
13:30	午後訓練
16:00	犬舎管理 ●給餌、排泄、掃除など
17:00	日報作成 その他、デスクワーク
19:00	夕食
20:30	（宿直の場合） 排泄などの犬舎管理
6:30	（宿直の場合） 犬たちの排泄、 朝の給餌準備など

※宿直がない施設もあります。

質問 017 盲導犬を連れている人が、英語で命令してましたがなぜ？



A ほとんどの盲導犬訓練施設では英語で指示します。これには、性別や方言などにより言葉遣いが変わることがなく、日本語の命令よりもやわらかく聞こえるという理由があります。しかし、日本語で指示を出して訓練している施設もあります。





A

訓練士の技術はむずかしい面もありますが、それは経験を重ねることで上達します。もっともむずかしいことは、視覚障害者福祉に従事する者として、情熱をもって努力し続けていけるかということです。訓練士という仕事は、犬を訓練するだけではなく、目の見えない人が盲導犬と安全に歩き、快適に暮らせるように指導することが役割であり責任の重い、しかし、やりがいのある仕事です。

質問
019

A

盲導犬の訓練士になるためには、まず盲導犬訓練施設に就職しなければなりません。そこで、訓練士としての技術を身につけます。どんなに訓練技術が高くても個人で盲導犬を育てることはできないのです。真剣に盲導犬訓練士を目指したいという人は、各地の訓練施設（全国盲導犬施設連合会の加盟施設一覧をご参照ください）にお問い合わせください。



Q.5 ユーザーと盲導犬の暮らし

質問 020 家にいるとき、盲導犬はどうしているの？



A 家の中ではペットと同じように、遊んだり寝たりしています。仕事とその他の時間の違いは、ハーネスをつけるかつかないかで犬にもわかっています。ハーネスを外しているときは、遊びの時間。甘ったれでやんちゃになる犬が多いようです。

質問 021 いつも特別な訓練をしているの？



A 盲導犬訓練施設を卒業したあとも必要に応じてフォローアップ（現地指導）がおこなわれますが、その他に特別な訓練はしません。町を歩くために必要な基本的なルールやマナーは、ほとんど訓練時に学びます。またご主人と歩きながらも、やっていいこと、悪いことを、いろいろな経験から学んでいきます。

質問 022 誰が犬の世話をしているの？



A 盲導犬の世話をするのは、盲導犬を使用する目の見えない人自身がします。食事は1回～2回、決められた時間に、決められた量のドッグフードを食べるのが一般的です。間食はさせません。これは健康のためでもあり、トイレの回数をコントロールするためでもあります。また、食後や出かける前などに、ご主人が指示をして盲導犬にトイレをさせます。歩きながら勝手に排泄するようなことは、体調不良など特別な事情がない限りはありません。





A

2002年に施行された「身体障害者補助犬法」で、すべての公共施設や交通機関だけでなくレストランや宿泊施設などで盲導犬を同伴して利用できます。しかし、利用を断られてしまうことがまだあります。行政機関から公共施設や交通会社などに受け入れるよう通達を発していますが、なかなか浸透しないようです。盲導犬ユーザーは、まわりの人に迷惑にならないように注意して利用しますので、どうぞ受け入れにご協力をお願いします。



A

盲導犬が雨でもないのにコートを着ているときは、毛が抜けて、他の人に迷惑をかけないようにご主人が着させているのです。ご主人は毎日ブラッシングするなど手入れをしますが、ラブラドル・レトリバーは毛が抜けやすいためです。ですからタクシーを利用したり、ホテルやレストランなどに出かけるときは、薄目の布地で作ったコートを着せる盲導犬ユーザーが多くいます。



A

盲導犬が体につけているのは、ハーネスと呼ぶ胴輪です。これはペットのリードとはまったく違うもので、盲導犬とユーザーをつなぐ大切なものです。このハーネスをとおして路面の状態や犬の動きなど、さまざまな情報を感じ取るための、とても大切な道具です。もし、町で盲導犬を見かけたときは、ハーネスにはげったいに触れないようにしてください。



Q.6 盲導犬の歴史と今



質問
026

いつごろから盲導犬がいるのですか？



A 古くはギリシア時代からいたといわれますが、1800年代にウィーンのクライン神父が書いた本の中に盲導犬の訓練に関する記述があります。本格的な盲導犬育成は第1次世界大戦の頃に戦争で失明した人々のためにドイツで始まりました。日本では1938年にアメリカの青年が盲導犬とともに来日したのが最初で、1939年にはドイツから4頭の盲導犬が輸入され、戦争で失明した軍人に渡されていました。国内で育成がスタートしたのは1957年。盲導犬育成には多くの手間と費用が必要なため、育成・普及はなかなか進まず、つい近年まで盲導犬の存在すらあまり知られないままでした。今は少しずつ人々に知られるようになり、本格的な普及が始まることを期待しています。



質問
027

盲導犬は、補助犬や介助犬とはちがうの？



A 身体障害者補助犬法が施行され、「盲導犬、介助犬、聴導犬」という3種の「補助犬」が日本で初めて規定されました。視覚に障害がある人の生活を補助するのが盲導犬。肢体が不自由な人の生活を補助するのが介助犬、聴覚に障害がある人の生活を補助するのが聴導犬です。それぞれ、人間のパートナーとして大切な役割を果たしてくれる犬たちです。

質問 028 日本には、どのくらいの盲導犬がいるの？



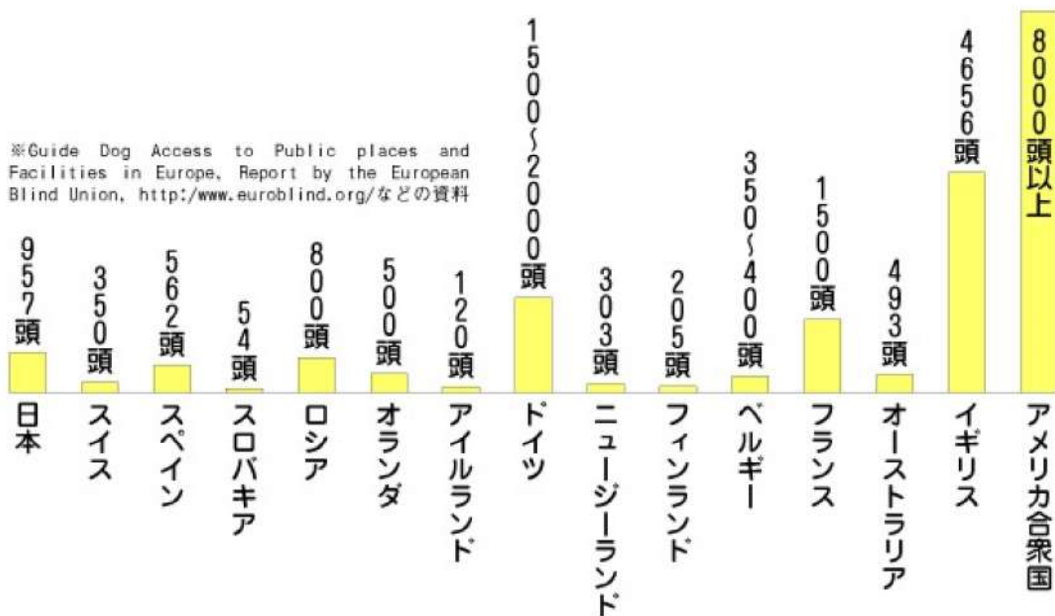
A 2005年の集計（日本盲人社会福祉施設協議会盲導犬委員会「盲導犬訓練施設年次報告」）では、957頭が日本国内で活動しています。日本財団が平成10年に実施した「盲導犬に関する調査研究」では、全国に盲導犬を必要としている使用希望者が約4,700人から7,800人いると推計していますので、まだまだ大幅に不足しています。

質問 029 世界中で盲導犬は何頭くらい活躍しているの？



A 国際盲導犬連盟という組織があります。ここには、28カ国の72の訓練施設が加盟しています。ロシアには連盟会員ではない訓練施設もありますので、それを合わせると盲導犬は約30カ国で訓練されていることとなります。盲導犬が活動している国はもっと多くなります。その数は表のようになり、国際盲導犬連盟では、世界で活動する盲導犬は約25,000頭以上と推定しています。

※Guide Dog Access to Public places and Facilities in Europe, Report by the European Blind Union, <http://www.euroblind.org/>などの資料



Q.7 盲導犬のいろいろな事情

質問 030 白いツエを持っている人は、盲導犬を使えないの？



A 白杖（はくじょう）を持っている人でも盲導犬を使えます。道路交通法では、視覚障害者が単独で道路を通るときは、白杖をたずさえるか、白色または黄色のハーネスを付けた盲導犬を連れてくることという決まりがあります。白杖も盲導犬も目が見えない人が安全に歩くために必要な方法です。白杖使用者の中にも盲導犬を希望している人は多くいますが、まだ盲導犬が行き渡るほどになっていないため、使えずにいるというのが実情です。



質問 031 視覚に障害のある人は、盲導犬を買ってくるの？



A 盲導犬は売ったり買ったりするものではありません。全国盲導犬施設連合会に参加している盲導犬訓練施設では、盲導犬を使いたいという目の見えない人に「無償」で「貸与（貸すこと）」をしています。これにはさまざまな理由がありますが、視覚障害者の方が負担なく使えるようにするためというのが大きな理由です。盲導犬の育成費用のほとんどは「盲導犬を育成するために」と、多くの方からお寄せいただいた寄付金や募金でまかなわれています。

質問 032 盲導犬は一生はたらくの？



A 盲導犬は8～10年ほど目の見えない人のパートナーとして生活すると、その後は引退して、育った施設か引退犬ボランティアの家庭で、のんびり老後を過ごしています。現役時代のご主人や幼い頃に育ててもらったパピーウォーカーもよく会いに行き、いっしょに遊んだりしています。





A 盲導犬として生活する犬の平均寿命は、ペットとして生活するラブラドル・レトリバーとまったく同じです。犬にとって大切なことはワクチン接種やフィラリア予防などの健康管理です。もっとも盲導犬にとって、いつもご主人といっしょに行動するので、ストレスがかかる仕事というよりは楽しく歩いている感覚なのかもしれません。



A 盲導犬が引退すると、盲導犬を利用する視覚障害者は次の新しい盲導犬が必要になります。これを代替と言います。盲導犬訓練施設の育成能力が年々増えないと代替だけになって、新しい希望者になかなか渡らず、従って盲導犬は増えないことになります。

盲導犬訓練施設の育成能力が増えない理由はいくつかあります。一つ目は、盲導犬としてふさわしい適性を持つ犬の確保がむずかしいこと、二つめには、犬を訓練したり、使い方を指導する訓練士や指導員が増えないこと、三つ目に、資金が不足していることです。これらの課題の克服に向けた盲導犬訓練施設の努力に対して、皆様のご支援とご協力をお願いいたします。



Q.8 協力のしかた

質問 035 盲導犬と出会ったとき、どうしたらいいの？



A 町を歩いている盲導犬は、ご主人が安全に歩けるように、一生けんめい手伝っています。だから姿を見かけたら歩行中は気が散らないように、大きな声をかけたり口笛を吹いたりしないようにお願いします。目の見えない人が困っていそうなときは「お手伝いすることはありますか？」など目の見えない人に声をかけてください。目の見えない人の要望に応じて、まわりの様子を説明したり、誘導していただくと助かります。



質問 036 盲導犬をなでたりオヤツをあげてもいいですか？



A 盲導犬がハーネスをつけているときは、触れないでください。盲導犬は人間が大好きなので、じっと見つめられるだけでもうれしくなって、お仕事に集中できなくなってしまうことがあります。また、食べ物はぜったいにあげないでください。規則正しく決まった時間に食事するという習慣は、盲導犬の排便をコントロールするためです。そして、そのことは犬の健康管理の上でも大切なことです。



質問 037 パピーウォーカーになりたいのですが？



A パピーウォーカーというボランティアはたいへん人気があり、希望される方がたくさんいます。パピーウォーカーの募集は各盲導犬訓練施設で、それぞれ募集していません。ボランティアを希望される方は、各訓練施設（全国盲導犬施設連合会の加盟施設一覧をご参照ください）にお問い合わせください。





A 盲導犬育成活動のボランティアとして、パピーウォーカー（子犬の飼育）、引退犬飼育ボランティア、キャリアチェンジ犬（不適と判断された犬）など直接犬の飼育に関するものや、イベント、募金活動などのボランティアがあります。また、賛助会員や寄付・募金を通して資金的に盲導犬訓練施設の活動を支援することもできます。ぜひ、ご協力をお願いします。



どうぞ、ボクたちを、応援してください。

募金箱設置にもご協力をお願いいたします

盲導犬を応援するには
何ができますか？



主な活動報告

盲導犬育成事業にご理解とご支援いただき誠にありがとうございます。

2002年10月に身体障害者補助犬法が施行され3年が経過、補助犬に対する理解が大きく前進しました。しかしまだまだ受入拒否の事例は後を絶ちません。厚生労働省は、補助犬使用者等の要望を受け入れ、見直しの検討会を設置することを決めました。身体障害者が暮らしやすい環境づくりに皆さまのご支援よろしくお願いします。

「盲導犬啓発キャンペーン」を全国59ヶ所で実施

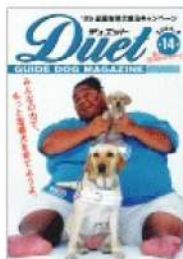
全国盲導犬募金箱設置店のご協力を得て店頭等で「盲導犬啓発キャンペーン」を実施しました。全国で活動している盲導犬は僅か957頭、出会う機会が少ない盲導犬を知ってもらうために積極的に取り組んでいます。

「身体障害者補助犬法の見直しに関する 要望書」を厚生労働省に提出



2005年9月8日、見直しに関する要望書を補助犬使用者団体と共同で提出し、記者会見を行い、法の見直しをアピールしました。

盲導犬普及ための広報誌の発行



- ・「デュエット」14号の発行（年1回4月）「10周年記念号」。募金箱に備え付け、ご自由にお取りいただいています。
- ・季刊誌「盲導犬情報」45～48号発行。施行3年が経った「補助犬法」見直しにあたり、問題点、改善点、各団体の動き等を主に取り上げました。
- ・2005盲導犬受入ポスターの作成。募金箱設置店舗に掲示しています。

盲導犬受入の促進



「ウエルカム盲導犬」（補助犬法を知っていますか）「盲導犬ハンドブック」（盲導犬受入マニュアル）のパンフレット各3万部を配布、あわせて「補助犬同伴可」ステッカーも配布しました。

盲導犬施設連合会「あり方検討委員会」の設置

日本の盲導犬事業発展のために、「連合会のあり方」（事業内容）について再検討をする委員会が設置され、報告書が理事会に答申されました。

盲導犬使用者の国会見学



2005年6月8日に盲導犬使用者が国会を見学し、参議院の本会議を傍聴しました。当日盲導犬使用者9人、盲導犬9頭、当連合会会長ら15人が参加しました。マスコミ各紙が大きく報道しました。

盲導犬歩行指導員等養成「カリキュラム調査委員会」の設置

盲導犬歩行指導員養成にとって必要な各専門分野の方々に委員になってもらい、指導員等の養成を共通化するための諸問題を調査・検討し、よりよい指導員養成に関する報告書が作成されました。